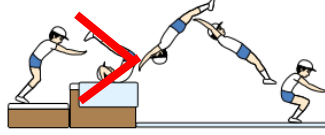
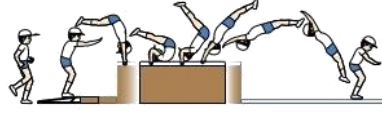
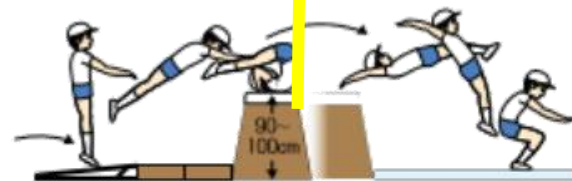
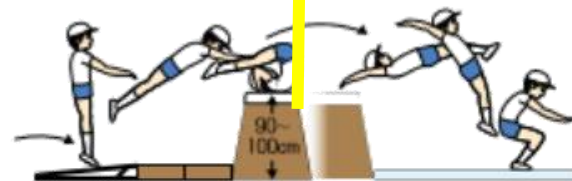


時	1	2	3	4	5	6	7
目標	【知識及び技能】 回転系の基本的な技の行い方を知っているとともに、自己の能力に適した回転系の技の動きを身に付けたり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 運動に進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り、誰とでも仲良く運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。						
コア技術	① 跳ねの動作まで膝を伸ばして、腰を「く」の字に折り曲げている。 ② 支持面を支点に腰が跳び箱の奥のラインよりも出たあと腰を反っている。 ③ うでを押し上げ、斜め前方にはねている。						
めあて	技を知り、学習の見通しをもとう。	はねおきのポイントを発見しよう。	跳び箱の上からはねタイミ	「く」の字を意識して首はね跳びをしよう。	助走から首はね跳びをしよう。	自分に合った場を考えて、練習しよう。	友だちのいいところを見つけよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 首はね跳びの予備的な動き  マット上で仰向けの屈身姿勢になり、腰の反動的な曲げ伸ばし（はね動作）を用いてはねおき、両足で立つ。 かかわりあい 補助 - 両側の補助者と手をつなぎ、はねおきにに合わせて腕を引き上げてもらう。 - 実施者が回転しすぎないように、補助者は十分安全に注意して行う。 声かけ 『く』の字、跳ねる。」 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 跳び箱上からはねおき  跳び箱から着地位置に首はね跳び下りを行う。腕でしっかり体重を支え、はね動作に合わせて勢いよく腕と肩を伸ばす。 かかわりあい 補助・声かけ 5人で1組のグループを作る。①②跳び箱の横にいる児童③跳び箱の横にいて「今。」と声をかける児童④跳び箱上の支持面より腰が前に出た後はね動作を行うように見ておく児童⑤技を行う児童 ①②の児童は、あまり早い時期に、真上にはね動作を行った場合跳び箱の上に落下することがあるので、必ず、肩と腰に手を添えて補助の体制をとっておく。 ⑤の人は自分の挑戦が終わった後、①②③④の人と「く」の字の状態であためて、いたかどうかを確認して次の挑戦に生かそうとする。 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 段差の連結した跳び箱ではねおき  コア技術① 腰を「く」の字に曲げる 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 跳び箱上からはねおき 3. 助走から着地まで一連の動作で行う ※ 助走は1歩で行わせる。勢いをつけすぎるとこれまでのコア技術①②が崩れる。  4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 跳び箱上からはねおき 3. 助走から着地まで一連の動作で行う  コア技術② 腰が跳び箱の奥のラインよりも出るまで支える 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 発表方法の確認 3. レベルに合わせた練習  4. 発表会 ・ VTRの確認 ・ 技の出来映えについて助言し合う。 5. 学習のまとめ 6. 振り返り	
	指導上の留意点	二台つなげた跳び箱でから着地位置に首はね跳び下りを行います。腕でしっかり体重を支え、はね動作に合わせて勢いよく腕と肩を伸ばします。	つまずき 跳び箱上からになったことで恐怖心が出た児童 →教師の声かけや補助によって2時までと同じ感覚で取り組める安心感を実感させてやる。また、友だち同士の「大丈夫」という声かけを大切にする。 ングをつかもう。	段差を少しずつ大きくしていき、助走から首はね跳びの一連の流れでもできるように近づけていく。	※ 跳び箱の上から安定してはねおきができるようになった児童にのみ実施させる。急がせては技の習得につながらない。跳び箱の上から安定してできていた児童でも、助走をつけたことで崩れる場合がよくある。その場合は ICT を活用して自分の動きを確認させ一度跳び箱の上から実施させ、再度実施すると効果的。	全員が助走から着地まで一連の動作で行う姿を目指す。児童の実態を見て技の習得ができるような場を設定する。	
知				① 観察・カード	② 観察・ICT	② 観察・ICT	
思			③ 観察・カード	① 観察・カード	② 観察・カード		
態	⑤ 観察	② 観察	④ 観察	③ 観察		① 観察	

単元の評価規準

【首はね跳び（跳び箱運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 跳び箱運動の行い方について，言ったり書いたりしている。 ② 台上前転を行うように回転し，背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きができる。	① タブレットやデジタルカメラなどの ICT 機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ，技のできばえや次の課題を確認するなど，自己の課題を見付けている。 ② 見付けた課題を解決するために，複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選んでいる。 ③ グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり，学習カードや ICT 機器を活用したりして，つまずいていた技や演技のこつやわかったことを，文字や図で書いたり，映像を活用して発表したりするなどして，仲間やグループに伝えている。	① 跳び箱運動の首はね跳びに積極的に取り組もうとしている。 ② 約束を守り助け合って運動をしようとしている。 ③ 準備や片付けなどで，分担された役割を果たそうとしている。 ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤ 場や器械・器具の安全に気を配っている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 跳び箱運動の行い方について，言ったり書いたりしている。	・ 首はね跳びの留意点を友だちや教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 台上前転を行うように回転し，背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きができる。	・ 滑らかな首はね跳びを安定して行うことができる。

（２）思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① タブレットやデジタルカメラなどの ICT 機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ，技のできばえや次の課題を確認するなど，自己の課題を見付けている。	・ タブレットやデジタルカメラなどの ICT 機器を活用して，動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ，技のできばえや次の課題を確認した上で課題を解決するために，自己の課題に適した練習の場を選んでいる。
② 見付けた課題を解決するために，複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選んでいる。	・ 見付けた課題を解決するために，複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選んでいる。
③ グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり，学習カードや ICT 機器を活用したりして，つまずいていた技や演技のこつやわかったことを，文字や図で書いたり，映像を活用して発表したりするなどして，仲間やグループに伝えている。	・ グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり，学習カードや ICT 機器を活用したりして，つまずいていた技や演技のこつやわかったことを，文字や図で書いたり，映像を活用して発表したりするなどして，仲間やグループに詳しく伝えている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 跳び箱運動の首跳ね跳びに積極的に取り組もうとしている。	・ 安定した首はね跳びへの行い方を試している。
② 約束を守り助け合って運動をしようとしている。	・ 励ましたり，応援したりするだけでなく，友だちの課題や解決策を提案しようとしている。
③ 準備や片付けなどで，分担された役割を果たそうとしている。	・ 準備や片付けを率先して行おうとしている。
④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。	・ 仲間の考えや取組を認め，実践しようとしている。
⑤ 場や器械・器具の安全に気を配っている。	・ 仲間の試技の最中も安全に気を配っている。

※ 学習指導要領解説の技の例示とは異なった学年で授業を計画しています。その理由は以下の２点です。

- ① 器械運動の技を系統的・段階的に習得するため。
- ② 器械運動の授業を学年間で偏りなく行うため。